大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

平成３１年３月号

例　会　報　告

湖南アルプス：　猪背山（初詣山行）　初級Ｃ

1 月 6 日（日）　曇　担当：山田昭則　参加者　22 名

平成 31 年の初詣山行は、今年の干支“亥”の山である猪背山が初例会である。JR 石山駅に集合し、バスで鹿跳橋に向かう。瀬田川を左岸に渡ったところの駐車場で、今年最初の例会なので会長から年頭挨拶の後、参加者の確認と行程の概要を説明しストレッチをして出発。歩道のない道路を車に注意しながら1時間以上歩かなければならない。途中に春日神社があるので、会長の拝礼に合わせて今年の安全登山の祈願をする。更に 20 分ほど歩きやっと脇出登山口である。いきなり木道の急な階段を 10 分ほど登り、杉・桧の樹林帯の中を延々と登っていくと山の神の祠、ここで小休止。みぞれ交じりの雨が少し降っているので、お昼の 12 時を回っているが後 30 分ほどで猪背山なので登ることとした。山頂直下は急登であったが頑張って登り、553.2m（三等三角点、点名：富川）の山頂に登頂である。展望もないし寒いので、お弁当を食べて登ってきたルートを下山することとした。

おいしい和菓子をいただいたので下り一方の登山道を快調に下り、最後の急な階段を避けて違うルートで車道に下り立った。帰りも春日神社で小休止し、富川磨崖仏に寄り岩壁に彫られた三体の仏様を仰ぎ見る。長々と道路を歩きやっと大石東地区の住宅の端にある公園の 93.7m（四等三角点、点名：大石東）に着いた。石柱ではなく鉄製の蓋であったが、空けることが出来なかった。少し歩くとスーパーマーケットがあり、バス停まで後 10 分ほどかかるがここで解散とした。

猪背山は、湖南アルプスの南の端にあり、展望もないのであまり登られていないようである。今年の干支の山とのことで、三日前に下見に来た際はあまり歩いた跡がなかったが昨日一昨日で幾らかの登山者が登ったようであるが、今日は日曜日なのに一組の団体とすれ違っただけであった。

コースタイム

JR 石山駅(9:24)＝京阪バス鹿跳橋バス停（10:01）～春日神社（11:09-11:20）～脇出登山口（11:36-11:40）～山の神（12:15-12:23）～猪背山（12:57-13:30）～脇出登山口（14:27）～富川磨崖仏（15:25-15:40）～大石東4丁目のスーパーマーケット前・解散(16:28)

生駒金剛和泉山地： 野崎観音・河内飯盛山 初級 B

1 月 13 日（日） 晴れ 担当:疋田正紀 参加者 21 名

JR学研都市線忍ケ丘駅前に集合。天候はすこぶる良好。少し寒いが絶好のハイキング日和となる。本日のコース説明の後、最初の目的地、国中神社を目指す。舗装された道を約 20 分程歩き国中神社へ着く。丁度、宮司さんが境内を清掃中で正月中のお守り札等がまだ多く残されていた。参拝後、真言宗の福城寺を経て、御机神社へ着く。ここも 1 月 15 日の「大とんど」を控え多くのお守り札等が残されていた。その後龍尾寺へ。龍尾寺は、奈良時代の有名なお坊さまの行基にゆかりがあり、龍の尾が弔われているとの事で苔の多い古寺であった。階段を降り、さらに歩き次の目的地、住吉平田神社へ着く。参拝後ここから稲荷神社を経て四条畷神社の境内へ。御祭神は、楠正成公の嫡男の正行公で「なにわ七幸めぐり」の社寺の一つである。ここから山道の登りになり、ジグザグみちを登り展望の良い二の丸史跡碑広場へ着き昼食とする。眼下の大阪平野の眺望も良く、あべのハルカスも手に取るように近くに見える。

昼食後、飯盛城址の道を歩き、本丸跡の飯盛山山頂(314m)へ。展望を楽しんだ後、日蓮宗楠公寺へ。小休止後、展望の良い尾根道を歩き大東市立青少年野外活動センターへ。休憩後、落ち葉の多い山道へ入り散策を楽しんだ後、寺川新池へ。日差しもあり暖かく、整備された小屋もあり休憩とする。ここから舗装路と山道を通り、宝塔神社を経て野崎観音へ。お染・久松の伝説がある野崎まいりで有名な観音である。参拝後、階段を降り、参道を経てJR野崎駅前にて解散。

多くの社寺を巡り、いくらかの御利益も得られた?かもしれないが、何よりも天候に恵まれ、枯れ落ち葉上の散策、山頂や樹間からの展望を楽しめた散策であった。

コースタイム

JR忍ケ丘駅(9:45)～国中神社(10:05-10:10)～御机神社(10:25-10:30)～龍尾寺(10:35-10:45)～住吉平田神社(10:55-11:00)～四条畷神社(11:05-11:15)～二の丸史跡碑広場(12:00-12:35)～飯盛山山頂(12:50-12:55)～楠公寺(13:05-13:10)～大東市立青少年野外活動センター(13:35-13:40)～寺川新池(14:15-14:20)～宝塔神社(14:40-14:45)～野崎観音(15:00-15:10)～JR野崎駅(15:25)解散

六甲山地：蓬莱峡　上高地合同バス山行（スノーハイク・テント泊）予行訓練

A班中級Ｃ・B班上級Ｄ　担当:松川元信　参加者 16 名

2 月 23･24 日に実施する「上高地合同バス山行」の予行訓練を蓬莱峡にてA班（宿泊施設利用）とB班（テント泊）が合同して実施しました。

1 月 13 日（日）晴　　参加者 16 名

A班・B斑合同で、アイゼンワーク（装着・歩行）、吹雪時対応（はぐれ防止ロープでの確保歩行）訓練を実施。ワカン・スノーシューの装着方法や凍傷についての説明を行いました。昼食時には、A班が 2 月 24 日の昼食時に作るラーメンの調理訓練をしました。出来上がったラーメンを参加者全員でいただきました。

食後にテントの設営訓練を行いました。15 時過ぎに日帰りのメンバー8 名は、訓練を終えて帰路につきました。

テント泊の 8 名は、各自のテントを設営後に、ロープワークの訓練を行いました。最後にテント内で夕食づくり（火気の取扱、換気、調理、食事、後片付け等）訓練を行いました。メニューは、肉と野菜の水炊きでした。食後はコーヒーブレイクで 20 時には就寝しました。

コースタイム

阪急バス宝塚バス停（10:20）＝知るべ岩バス停（10:40）～蓬莱峡（11:00）

1 月 14 日（月・祝）晴　　参加者 8 名

午前 2 時頃に、星座観測のためにテントから出ました。上空には北斗七星が輝いていました。5 時に起床し就寝装備を片付けて、4 人用の狭いテント内で朝食をとる練習を行いました。メニューは、雑炊でした。食後にテントの撤収作業を行い帰路につき、座頭谷バス停から乗車して宝塚バス停で下車して解散しました。

コースタイム

蓬莱峡（9:00）～阪急バス座頭谷バス停（9:35）＝阪急バス宝塚バス停（10:05）

生駒金剛和泉山地：　金剛山　初級Ｃ

1月 19 日（土）　快晴　担当：髙木順子　参加者 14 名

霧氷は期待どおりではなかったが、青空と輝くひざしに恵まれたハイキング日和となった。スタートの林道入口でコース説明・簡単なストレッチをした後、参加者全員に自己紹介をしていただく。30 分程坂道を上ったところで衣服調整する旨を伝えて出発。

少し急な坂道をゆっくりペースで歩き、峠下の平らな場所で水分の補給と衣服を整えてから、急な階段を一気に上りつめてダイヤモンドトレイルの通過点・久留野峠に出る。杉林の山を登り出屋敷山と表示された地点を通り過ぎて地蔵前に出る。例年このころはここから伏見峠に至る尾根道沿いの霧氷をたのしめるのだが、残念ながら全くなし。歩きづらい階段状の残雪の道を足元を選んで下ると伏見峠に。ここまでは静かな山の雰囲気を味わいながらきたが、伏見道から上ってきた家族連れや若いグループの人達でにぎわう広い道を歩くと、ちはや園地に到着。早いがここで大休憩とする。暖かい太陽の下のベンチで用意してきた白玉ぜんざいを温めて参加者の皆さんに食してもらう。好評であった様子。（菅生さん、木藤さんにはガスバーナー・ポットの湯などを持参していただき感謝です）

休憩後、山頂にむかい出発。一の鳥居をすぎ仁王杉辺りですれちがう登山者から「いまもうここだけだよ！霧氷」と教えていただく。遠く葛城山を望む道沿いにわずかの霧氷を確認。葛木神社では全員で参拝した後、集合写真を撮影。そしてここでアイゼン装着。転法輪寺に向かう凍結した急な下り坂ではアイゼンが必要であった。国見城跡からの帰り道は寺横から裏参道に入る。山くずれの跡の道沿いにロープが張られていて巾の狭い凍結した雪道。山側が急斜面なので路肩に気を付けながら足の角度を 90 度に近い歩き方で無事通過する。この先の野鳥の集まるところで持参してきた落花生でヤマガラと遊んだあと、大きな倒木を乗り越えて仁王杉の表参道に入る。帰り道、一の鳥居を出たところで「一等三角点に立ち寄ろう！」の声。湧出岳一等三角点（1111.9m）は奈良県とのこと。みんなでタッチの写真を撮る。

ちはや園地展望台の下で装着していたアイゼンを外し全員で展望台に上る。奈良県側・和歌山県側・大阪南部の山々が一望に見渡せる。遠くに白い雪をかぶった山の峰々、大峰山・弥山・高見山・三峰山などはっきりみることができ、風もなく天候に恵まれた金剛山行で、全員無事下山した。

コースタイム

金剛山ロープウェイ前バス停(9:15)～林道入口(9:20-9:30)～峠下(9：55-10:00）～久留野峠

(10:05)～地蔵前(10:35)～伏見峠(10:50)～ちはや園地(10:55-11:40)～一の鳥居(12:05)～葛木神社(12:20-12:30)～転法輪寺～国見城跡(12:35-15:55)～裏参道口(12:58)～一の鳥居(13:20)～湧出岳(13:25-13:35)～ちはや園地展望台(13:50-14:05)～伏見峠(14:10)～久留野峠(14:40-14:45)～金剛山ロープウェイ前バス停(15:15)

八幡市：　男山（石清水八幡宮）　初級 B

1 月 20 日（日）　小雨後曇り　担当：松本吾郎　参加者 10 名

お正月が過ぎ「大寒」の朝、小雨降る中、京阪橋本駅に集合。国宝石清水八幡宮に新年の参拝を兼ねた山行となる。

八幡市の最高峰：鳩ヶ峰（標高 142.4m）を目指し、西遊寺門前で身支度を整え、定刻の 10 時に出発。急坂の住宅地をアップダウンし、狩尾神社の立つ丘を左に見て廻りこみ、やがて右手に竹林を見ながら行くと左手に「男山レクレーションセンター」の入り口が有る。その管理事務所の軒先を借りてミーティング。参加者の確認、コースとトイレの案内をし、降雨の為ストレッチは省略して出発から約 25 分の歩行で汗ばんだ衣服の調整をして出発。駐車場裏の狭い通路からいよいよ鳩ヶ峰への「こもれびルート」に入る。雨に濡れた階段を登りきると直ぐに鳩ヶ峰頂上に着いた。ここには鳩ヶ峰国分寺跡の史跡標があり、二等三角点が有る重要な地点である。こもれびルートは気持ちよく歩けるが昨年の台風による倒木が左右に展開する。かなり山道は整備されてきているがまだ 2 ヵ所ほど倒木が残っていた。男山ケーブルカーが見えるところで急に開け、晴天時は京都市内が見えるはずだ。急階段を下って杉山谷不動尊にお参りし、ケーブルカーの鉄橋の高さが日本一の鉄橋の下を潜り、巨大な五輪塔を左に見て、石清水八幡宮の一ノ鳥居の前に出る。

改めて表参道から進み、朱塗りの頓宮を抜け、トイレ休憩を取る。二ノ鳥居から表参道の長い階段を松花堂跡、男山48坊跡を確認しながら登り、三ノ鳥居に辿り着く。直線の参道を進み、南総門を潜り、徳川家光公修造の国宝の本殿に参拝する。

その後裏手の男山展望台にて昼食を取る。そこからは愛宕山、京都市内、比叡山、比良山地、宇治方面が見えるはずだが雨雲で良く見えない。三川合流の背割り堤、天王山はふかんできた。NPO 法人八幡たけくらぶが製作の大トンボやカマキリの展示広場となっており、その

店内には多種類の竹細工が販売されていた。急な階段を下り、ケーブルカー山上駅前を通り、エジソン記念碑に立ち寄る。次に楠正成公御手植えの楠の大木を見上げながら竹藪の中を「ひだまりルート」に入り、帰路に。東高野街道を通り、大谷川に架かる安居橋（太鼓橋）経由京阪・八幡市駅に到着した。それでも万歩計約 17,000 歩の歴史堪能の山行であった。

コースタイム

京阪橋本駅（9:50）～男山レクレーションセンター（10:25-10:38）～鳩ヶ峰（10:52-10:58）～一ノ鳥居（11:35-11:40）～石清水八幡宮本殿（12:10-12:25）～男山展望台・昼食(12:30-13:05)～エジソン記念碑(13:20)～石不動(13:40)～神原交差点(13:50)～安居橋(14:10)～京阪八幡市駅(14:30)

京都北山：　愛宕山　中級 C

1月 27 日（日）　曇時々晴　担当：藤井眞紀子　参加者 20 名

例会前日、京都市内では一日中吹雪いていたとのこと。愛宕山の積雪はどうだろうかと、期待しつつも少々不安な思いで阪急嵐山駅に降り立った。

駅前のバス停では、電車の到着とともにみるみるうちに登山客の長い列ができた。数人の積み残しがあったが、例会参加者は全員乗ることができて安堵する。駅周辺は薄っすらと雪が積もっていたが、一の鳥居を過ぎトンネルをくぐると真っ白な銀世界が広がっていた。オーバーズボンをはき、スパッツを付けるなど全員の出発準備に少々時間が掛かったので、その間にそれぞれで準備体操をしていただくようにお願いした。二の鳥居の登山口でコース説明・人数の確認をし、臨時のバスで後から来られた 1 名を加え総勢 20 名で出発する。

いきなりの急登をゆっくり進む。登山道は薄っすらシャーベット状になった雪があるが、凍っていないので歩きやすい。20 分ほど登ったところで衣服調整をする。傾斜もゆるやかになり、雪景色を楽しみながら登り、三合目小屋に到着し休憩とした。愛宕山も昨年の豪雨や台風で多くの倒木があったが綺麗に整備され歩きやすくなっていた。だが、三合目の小屋の屋根には大きな木が覆いかぶさり何とか耐えているが痛々しく、まだまだ爪痕は残っている。五合目の小屋に着いた頃には、足元の雪も大分深くなってきたがまだシャーベット状態でアイゼンを履くほどではない。しばらく進むと左手に雪化粧した京都市内がぼんやりではあるが見渡せ疲れをいやしてくれる。木々の枝に積もった様々な形をした雪の造形を楽しみながら足元にも注意し

て登る。ツツジ尾根の分岐を過ぎたあたりで、雪質もしまってきたので、アイゼンの練習もかね装着する。そしてようやく黒門へ。全員が到着するのを待ち、最後の登りへ歩を進める。愛宕神社下広場に予定より少し遅い到着となったので、愛宕神社へは有志の方のみ休憩時間内に参拝してもらうことにして、社務所前の休憩所で昼食とした。途中風もなく比較的穏やかだったが、さすがにここは寒かった。

昼食後、小雪も降ってきたので集合写真を撮り、早々に下山を始めた。水尾の別れを過ぎツツジ尾根へ入る。思ったより雪はたっぷりあった。急な下りも雪のお陰で比較的歩きやすかった。下りは列が乱れることもなく、荒神峠で休憩を入れた後、雪景色を惜しみながら登山口へと下山し JR 保津峡駅で解散した。

今年は暖冬で雪があるか心配していたが、充分に雪山を楽しむことができた。途中、遅れた人が出たり列が乱れたりなど、反省すべき点が多々ありましたが、皆様の御協力で無事に例会を務めさせて頂くことができました。有難うございました。

コースタイム

京都バス清滝バス停(9:03)～二の鳥居・登山口(9:15-9:30)～衣服調整(9:50-9:56)～三合目小屋(10:23-10:33)～五合目小屋(10:57-11:06)～アイゼン装着(11:30-11:40)～黒門(12:10-12:20)～愛宕神社下広場・昼食(12:30-13:10)～ツツジ尾根分岐(13:53)～荒神峠(14:40-14:45)～休憩(15:26-15:35)～登山口(16:00)～JR 保津峡駅(16:10)